(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-109767
(P2017-109767A)
(43)公開日　平成29年6月22日(2017.6.22)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
B65D 75/34	(2006.01)	B65D	75/34		3E035
B65D 85/50	(2006.01)	B65D	85/50	A	3E067

審査請求 未請求　請求項の数 6　ＯＬ　（全 12 頁）

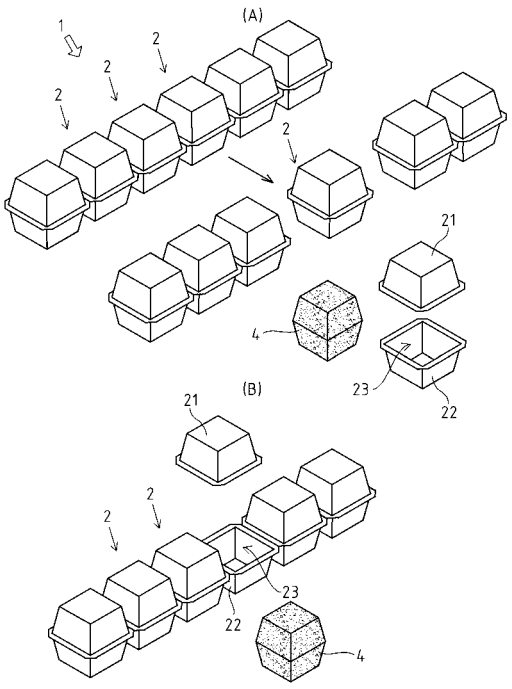
(21)出願番号　特願2015-245988 (P2015-245988)
(22)出願日　平成27年12月17日 (2015.12.17)

(71)出願人　000000055
アサヒグループホールディングス株式会社
東京都墨田区吾妻橋一丁目２３番１号
(74)代理人　100142804
弁理士　大上　寛
(72)発明者　島田　道雄
茨城県守谷市緑１丁目１番地２１　アサヒグループホールディングス株式会社内

Ｆターム(参考)　3E035 BA02 BA08 BB02 BC02 CA04 DA03
3E067 AA01 AA11 AB01 AB26 AB28 AC04 AC05 AC11 BA10A BA12A BA17A BB14A BC02A BC04A CA24 EA06 EA32 EB03 EB27

(54)【発明の名称】包装容器

(57)【要約】
【課題】　新規な包装容器を提案する。
【解決手段】　連続して複数個が配列される小容器２と、各小容器２の間に形成され任意に隣り合う小容器２を分離可能に接続する接続部３０と、を有してなる包装容器１であって、各小容器２は、隣り合う小容器２との連続状態を維持したまま、個別に開封可能である、包装容器１とする。任意の箇所の小容器２を分離してその内容物４を取り出すことや、小容器２，２同士の接続を維持しながら、任意の箇所の小容器２を開封して内容物４を取り出すことが可能となる。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
連続して複数個が配列される小容器と、
前記各小容器の間に形成され任意に隣り合う小容器を分離可能に接続する接続部と、
を有してなる包装容器であって、
前記各小容器は、
隣り合う前記小容器との連続状態を維持したまま、個別に開封可能である、
包装容器。
【請求項２】
少なくとも三個の前記小容器を帯状に配置してなる、
ことを特徴とする請求項１に記載の包装容器。
【請求項３】
前記各小容器は、第一部材と第二部材を貼り合わせて内容物を収容する収容空間が形成されており、
隣り合う第一部材同士の間に、線状の切り欠き部と、非切り欠き部が交互に配置される前記接続部が構成され、
隣り合う第二部材同士の間に、線状の切り欠き部と、非切り欠き部が交互に配置される前記接続部が構成され、
前記非切り欠き部により隣り合う複数の第一部材と、隣り合う複数の第二部材が、それぞれ接続されたままの状態において前記小容器を開封できる構成とする、
ことを特徴とする請求項１又は請求項２に記載の包装容器。
【請求項４】
前記第一部材、前記第二部材は、同一形状からなる有底容器にて構成され、
小容器は半割りすることで開封される、
ことを特徴とする請求項３に記載の包装容器。
【請求項５】
前記第一部材はフィルム状の蓋であり、前記第二部材は有底容器にて構成され、
前記小容器は前記蓋を剥がすことで開封される、
ことを特徴とする請求項３に記載の包装容器。
【請求項６】
前記各小容器は、各小容器の内外を通じさせるための開口部を形成するための第二開口機構をさらに備え、
前記各小容器の前記開口部から前記各小容器内の内容物を抽出可能に構成される、
ことを特徴とする請求項１乃至請求項５のいずれか一項に記載の包装容器。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、調味料、食品、飲料などを収容するために用いられる包装容器に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、例えば、特許文献１に開示されるように、樹脂シート製のトレーに、複数のピース状内容物を連結してなる固形物（ペースト状のカレールウを固化したもの）を収容し、トレーを折り曲げることで、ピース状内容物の連結部を構成する薄肉部でピース状内容物を分断し、必要な数のピースを使用に供するという技術が知られている。
【０００３】
この特許文献１においては、段落００３７、図６において、各分割トレーが夫々六個のルウピース成型区画を有し、各分割には夫々六人前の固形ルウブロックが収容される構成が例として開示されている。
【先行技術文献】
【特許文献】

【０００４】
【特許文献１】特許第５５３０２５３号明細書
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
特許文献１に開示される構成の場合、各分割トレーにおいて六個の固形ルウブロックが収容されているため、一個のピース状内容物だけを使用したい場合においても、蓋フィルムを剥がさなければならず、使用しない五個のピース状内容物も外部にさらされて、酸化が進行してしまうことになる。
【０００６】
即ち、特許文献１のような容器の形態は、複数の固形ルウブロックを同時に用いることを前提としており、一個のピース状内容物を用いる場合については、好適に用いられるものではないといえる。
【０００７】
他方、従来のような同一種類のピース状内容物を一つのパッケージして販売するのではなく、種類の異なる複数種類の内容物を同時に販売するニーズについて検討したところ、例えば、複数種類のフリーズドライ製品を一つのパッケージとして同時に販売することや、複数種類の調味料を一つのパッケージとして同時に販売することや、複数種類の飲料原料を一つのパッケージとして同時に販売することなどのニーズに見出し、このようなニーズに対応可能な容器形態を鋭意検討し、本発明を完成するに至った。
【０００８】
また、検討過程において、各ピース状内容物をそれぞれ個別に収容できる分割トレーを接続し、各分割トレーを個別に開封可能な蓋で密閉する構成を検討したが、例えば、一度に六個のピース状内容物を同時に使用したい場合に、蓋を一つずつ開封しなければならず、手間を要することになることを見出した。
【０００９】
本発明は、以上に基づいて新規な包装容器を提案するものである。
【課題を解決するための手段】
【００１０】
本発明の解決しようとする課題は以上の如くであり、次にこの課題を解決するための手段を説明する。
【００１１】
即ち、請求項１に記載のごとく、
連続して複数個が配列される小容器と、
前記各小容器の間に形成され任意に隣り合う小容器を分離可能に接続する接続部と、
を有してなる包装容器であって、
前記各小容器は、
隣り合う前記小容器との連続状態を維持したまま、個別に開封可能である、構成とする。
【００１２】
また、請求項２に記載のごとく、
少なくとも三個の前記小容器を帯状に配置してなる、包装容器とする。
【００１３】
また、請求項３に記載のごとく、
前記各小容器は、第一部材と第二部材を貼り合わせて内容物を収容する収容空間が形成されており、
隣り合う第一部材同士の間に、線状の切り欠き部と、非切り欠き部が交互に配置される前記接続部が構成され、
隣り合う第二部材同士の間に、線状の切り欠き部と、非切り欠き部が交互に配置される前記接続部が構成され、

前記非切り欠き部により隣り合う複数の第一部材と、隣り合う複数の第二部材が、それぞれ接続されたままの状態において前記小容器を開封できる構成とする。

【００１４】

また、請求項４に記載のごとく、

前記第一部材、前記第二部材は、同一形状からなる有底容器にて構成され、

小容器は半割りすることで開封される、こととする。

【００１５】

また、請求項５に記載のごとく、

前記第一部材はフィルム状の蓋であり、前記第二部材は有底容器にて構成され、

前記小容器は前記蓋を剥がすことで開封される、こととする。

【００１６】

また、請求項６に記載のごとく、

前記各小容器は、各小容器の内外を通じさせるための開口部を形成するための第二開口機構をさらに備え、

前記各小容器の前記開口部から前記各小容器内の内容物を抽出可能に構成される、こととする。

【発明の効果】

【００１７】

本発明の効果として、以下に示すような効果を奏する。

【００１８】

即ち、請求項１に記載の発明においては、

任意の箇所の小容器を分離してその内容物を取り出すことや、小容器同士の接続を維持しながら、任意の箇所の小容器を開封して内容物を取り出すことが可能となる。そして、例えば、六個の小容器が一つのパッケージとして販売されるものについて、利用者はそのうちの一個の内容物を使用することや、複数の内容物を同時に使用することが可能となり、任意に使用する内容物の数を選択することができる。使用しない内容物については、密閉状態を保つことができ、保存性に優れた構成が実現できる。また、小容器を分離せずに開封できることにより、開封されない小容器がバラけることなく、嵩張らない状態で保存することができる。

【００１９】

また、請求項２に記載の発明においては、

帯状に連続する小容器について、端から開封するのではなく、任意の位置において開封することが可能となる。特に、異なる種類の内容物が各小容器に収容される使用形態においては、利用者が好みに内容物を使用できることになり、利便性に優れた構成が実現できる。

【００２０】

また、請求項３に記載の発明においては、

小容器を一つずつ開封するほか、複数の小容器を一度に開封することも可能となる。

【００２１】

また、請求項４に記載の発明においては、

特にブロック形状の固形、半固形の内容物を収容する形態に好適に利用できる。

【００２２】

また、請求項５に記載の発明においては、

ブロック形状の固形、半固形の内容物を収容するほか、液体を収容する形態にも好適に利用できる。

【００２３】

また、請求項６に記載の発明においては、

開口部を通じて内容物を抽出することもできる。

【図面の簡単な説明】

【００２４】

【図１】（Ａ）は小容器を分離する様子について説明する図。（Ｂ）は任意の小容器を分離せずに開封開封する様子について説明する図。
【図２】（Ａ）は有底容器を二つ組み合わせてなる小容器の平面図。（Ｂ）はフィルム状の蓋で有底容器を密閉する小容器の平面図。
【図３】（Ａ）は複数の小容器を一度に開封する様子について説明する図。（Ｂ）は複数の小容器を一度に開封して内容物が取り出される様子について説明する図。
【図４】ロール式収容装置の構成について説明する図。
【図５】（Ａ）は小容器を分離する様子について説明する図。（Ｂ）は任意の小容器を分離せずに開封開封する様子について説明する図。
【図６】複数の小容器を一度に開封する様子について説明する図。
【図７】（Ａ）は第二開口機構を設けた小容器を連続して備える構成について示す図。（Ｂ）は第二開口機構を設けた小容器の構成について示す図。（Ｃ）は第二開口機構を設けた小容器を連続して備える他の構成について示す図。（Ｄ）は第二開口機構を設けた小容器の他の構成について示す図。
【発明を実施するための形態】
【００２５】
以下具体的な例を用いて本発明について説明する。
図１（Ａ）（Ｂ）は、本発明に係る包装容器１の一実施形態について示すものであり、包装容器１は、食品などの内容物を密閉状態で収容可能な小容器２，２を複数含み、各小容器２，２は分離可能な状態で接続されており、かつ、各小容器２，２は個別に開封可能に構成されている。
【００２６】
図１（Ａ）に示す包装容器１は、合計６個の小容器２を一列に配設して構成されており、そのうちの一つの小容器２を分離した様子について示している。
【００２７】
小容器２は、一対の有底容器２１，２２の開放側を付け合せて内部に収容空間２３を形成し、収容空間２３に内容物４を収容できる。小容器２は、有底容器２１，２２を半割りすることで開封でき、内容物４を取り出すことができる。有底容器２１，２２の形状は、図の例のように略直方体形状として略直方体の内容物を収容する構成とする他、球形の内容物を収容するための構成としてもよく、特に形状については限定するものではない。
【００２８】
小容器２の素材は特に限定されるものではないが、プラスチック素材にて構成することができ、内容物４を取り出した後には容易に廃棄できる素材で構成されることが好ましい。
【００２９】
図１（Ｂ）に示すように、小容器２は、隣接する小容器２と分離しなくても、一方の有底容器２１を取り外すこととにより、内容物４を取り出すことができる。つまり、隣り合う小容器２，２同士の接続状態を維持しながらも、小容器２を開封して内容物４を取り出すことができる。
【００３０】
図２（Ａ）は小容器２の接続部３０について示す平面図であり、接続部３０には、線状の切り欠き部３２と、非切り欠き部３４が交互に配置されており、一連のミシン目状のライン３６が構成される。
【００３１】
切り欠き部３２は、有底容器２１，２２の厚み方向に貫通する線状の溝にて構成することができる。非切り欠き部３４は、隣接する有底容器２１，２１同士、隣接する有底容器２２，２２同士をそれぞれ連結するものであり、詳しくは後述するように、図３（Ａ）（Ｂ）に示すような開封を可能とするものである。
【００３２】
図２（Ａ）に示すように、接続部３０を手で力を加えて千切る、或いは、ハサミやカッ

ターなどで切断することで、隣り合う小容器２，２同士を分離することができる。
【００３３】
接続部３０における分離をし易くするように、ライン３６の延長線状にＶ字状の切り込み部３８が形成される。
【００３４】
小容器２を構成する半割の有底容器２１，２２同士は、その開口部周辺がヒートシールされることで接着ライン４２（点線で示す）が構成され、小容器２の密閉状態が確保される。
【００３５】
また、切り込み部３８においては、ヒートシールがされない非接着部４４（本実施例では接着ライン４２の外周部分）が確保され、この非接着部４４に手指の爪の先を差し込むなどして片側の有底容器２１（或いは有底容器２２）を捲り上げることができる。
【００３６】
そして、片側の有底容器２１を捲り上げて分離する場合であっても、図１（Ｂ）に示すように、もう一方の有底容器２２においては隣り合う小容器２との接続状態が維持される。
【００３７】
このように、小容器２を分離せずに開封できることにより、開封されない小容器２がバラけることなく、帯状のまま嵩張らない状態で保存することができる。
【００３８】
以上に説明した構成により、図１（Ａ）に示すように、任意の箇所の小容器２を分離してその内容物４を取り出すことや、図１（Ｂ）に示すように、小容器２，２同士の接続を維持しながら、任意の箇所の小容器２を開封して内容物４を取り出すことが可能となる。
【００３９】
これにより、例えば、図１（Ａ）に示すように、六個の小容器２，２が一つのパッケージとして販売されるものについて、利用者はそのうちの一個の内容物４だけを使用することや、複数の内容物４を使用することが可能となり、任意に使用する内容物４の数を選択することができる。使用しない内容物４については、密閉状態を保つことができ、保存性に優れた構成が実現できる。
【００４０】
例えば、内容物４がフリーズドライ食品の味噌汁である場合に、一人前が一つの小容器２に収容されることとし、適宜人数分を使用するといったことが可能となる。
【００４１】
さらに、各小容器２，２について異なる内容物４を収容することとして、利用者が任意に使用する内容物４を選ぶことが可能となる。
【００４２】
例えば、内容物４がフリーズドライ食品の味噌汁である場合において、異なる種類の具（例えば、なす、長ネギ、とうふ、ほうれん草、ごぼう、しじみ、の合計６種類のアソート）を入れたものがそれぞれ小容器２に収容されることとし、適宜好みの具の内容物を使用するといったことが可能となる。
【００４３】
また、以上の構成において、小容器２を一つずつ開封するほか、図３（Ａ）（Ｂ）に示すように、複数の小容器２を一度に開封することも可能である。
【００４４】
即ち、半割の構成とする小容器２において、列の端にある有底容器２１，２２同士を互いに引き離すようにして開封を開始し、図において上側にある有底容器２１，２１の列２１Ａと、下側にある有底容器２２，２２の列２２Ａにおいて、各有底容器が引き連らなるように開封を続けることにより、一度に連続して複数の小容器２を開封するものである。
【００４５】
図３（Ａ）（Ｂ）は、３個の小容器２を開封する例を示すものであり、手作業で開封す

る場合には、端から３個目の小容器２が開封した時点で力を緩めることで、３個のみを開封することができる。また、小容器２を装置にて自動送りして、連続して３個開封するといったこともできる。

【００４６】

また、図４に示すロール式収容装置５に、帯状に多数の小容器２を接続してなる包装容器１をロールを形成するように収容し、適宜、小容器２を巻きだして使用に供するということもできる。

【００４７】

図４に示すロール式収容装置５は、収容ボックス５１と、ロール軸５２と、を有して構成される。収容ボックス５１に設けた開口部５１ａからは、ロール軸５２に巻き取られた包装容器１を連続的に引き出すことができる。

【００４８】

手動で包装容器１を引き出す形態においては、ロール軸５２は自由回転すべく構成され、利用者が任意に包装容器１を引き出すことができる。ロール軸５２を回転させる図示せぬハンドルを収容ボックス５１に設け、ハンドルを手動で操作して包装容器１を巻き出したり、巻き取ったりすることとしてもよい。

【００４９】

このような手動による形態は、例えば、厨房に収容ボックス５１を設置して利用する場合や、店舗において任意の数の小容器２を販売するような場合に好適に利用できる。

【００５０】

また、ロール軸５２を回転駆動する駆動装置を設けることで、自動で包装容器１を巻き出したり、巻き取ったりすることとしてもよい。この構成の場合には、図３（Ｂ）に示すように、連続して小容器２を開封する仕組みと組み合わせることにより、小容器２の児童供給と、自動開封を連続的に実施することができ、例えば、厨房や食品工場などにおいて、自動制御により小容器２の供給と開封の工程を実施するということも可能となる。

【００５１】

図５（Ａ）（Ｂ）は、有底容器２２にフィルム状の蓋２５を被せて密閉する構成とする小容器２の例である。このように、フィルム状の蓋２５を用いる構成においても、図２（Ｂ）に示すように、帯状に構成される蓋２５について、線状の切り欠き部３２と、非切り欠き部３４が交互に配置されて一連のミシン目状のライン３６をなす接続部３０を設けることとする。

【００５２】

これにより、図５（Ａ）に示すように、任意の小容器２を分離することや、図５（Ｂ）に示すように、任意の小容器２を開封することや、図６に示すように、一度に複数の小容器２を開封するといった使用形態が可能となる。

【００５３】

なお、小容器２の形態は以上の構成に限るものではなく、例えば、液体を収容する小容器２において、小容器を押し潰すことにより内容物を吐出させるものなど（チューブ状の容器、パウチ状の容器）についても、本発明を実施することができる。また、内容物によっては、厳密な密閉状態を確保する必要がない場合があり、内容物の種別に応じて厳密な密閉性を確保することのほか、通気穴を確保して敢えて密閉としない構成とすることも考えられる。

【００５４】

小容器２は、図１（Ａ）（Ｂ）に示すように、小容器２を一列に複数並べる形態とする他、複数列（二列、三列など）設けられるものであってもよい。小容器２の大きさについても特に限定されるものではなく、例えば、各辺が２ｃｍの立方体形状をなす小型のものとすることや、縦１０ｃｍ，幅５ｃｍのパウチ状容器などであってもよい。

【００５５】

また、内容物については、固体、液体の他、ゼリー状などの半固形物や、粉末なども考えられる。また、飲食品のみならず、化粧品、各種薬品などを内容物とすることができる

。
【００５６】
図７（Ａ）（Ｂ）は、以上に説明した開封の構成に加え、さらに、第二開口機構２６を設ける構成とするものである。この実施例では、つまみ部２６ｃを破断部２６ｂに沿って折り曲げることにより、開口部２６ａを露出させ、内部に収容された液体や粉末などを抽出可能とするものである。
【００５７】
つまみ部２６ｃは、折り曲げによる破断の他（パキッと折れる）、ねじりにより千切られるものや、或いは、ハサミやカッターなどで切断されて開口部２６ａを露出させることとするものであってもよい。
【００５８】
この構成によれば、上述したように、有底容器２１，２２同士を引き離すように開封することの他にも、開口部２６ａの開封による内容物の取り出しも可能となり、開封のバリエーションを広げることができる。この図７（Ａ）（Ｂ）の構成においても、図２（Ａ）に示される接続部３０を有する構成とすることで、図３（Ａ）（Ｂ）に示すものと同様に、複数の証容器２を一度に開封することができる。
【００５９】
図７（Ａ）（Ｂ）の構成の開口部２６ａは比較的小さなものとし、流動性の高いものを収容する場合に好適となる。他方、図７（Ｃ）（Ｄ）の構成に示すように、比較的大きな開口部２７ａを形成することによれば、流動性が低い内容物についても容易に抽出することができる。
【００６０】
以上の図７（Ａ）～（Ｄ）に示す構成は、図１や図５に示される構成に追加的に付加することもできる。また、各小容器２において、開口部２６ａを通じた抽出を可能とするために、各つまみ部２６ｃの間にはスペース２６ｄが確保され、各つまみ部２６ｃが独立して操作されて、各小容器２の開口部２６ａが個別に開封できるように構成される。
【００６１】
以上のようにして本発明を実施することができる。
即ち、図１（Ａ）（Ｂ）の例に示すように、
連続して複数個が配列される小容器２と、
各小容器２の間に形成され任意に隣り合う小容器２を分離可能に接続する接続部３０と、
を有してなる包装容器１であって、
各小容器２は、
隣り合う小容器２との連続状態を維持したまま、個別に開封可能である、
包装容器１とするものである。
【００６２】
これにより、図１（Ａ）に示すように、任意の箇所の小容器２を分離してその内容物４を取り出すことや、図１（Ｂ）に示すように、小容器２，２同士の接続を維持しながら、任意の箇所の小容器２を開封して内容物４を取り出すことが可能となる。そして、例えば、図１（Ａ）に示すように、六個の小容器２，２が一つのパッケージとして販売されるものについて、利用者はそのうちの一個の内容物４を使用することや、複数の内容物４を同時に使用することが可能となり、任意に使用する内容物４の数を選択することができる。使用しない内容物４については、密閉状態を保つことができ、保存性に優れた構成が実現できる。また、小容器２を分離せずに開封できることにより、開封されない小容器２がバラけることなく、嵩張らない状態で保存することができる。
【００６３】
また、図１（Ａ）に示すように、少なくとも三個の小容器２を帯状に配置してなる、包装容器１とする。
【００６４】

これにより、帯状に連続する小容器２について、端から開封するのではなく、任意の位置において開封することが可能となる。特に、異なる種類の内容物が各小容器２に収容される使用形態においては、利用者が好みに内容物を使用できることになり、利便性に優れた構成が実現できる。

【００６５】

また、図２（Ａ）、図３（Ａ）（Ｂ）に示すように、

各小容器２は、第一部材（有底容器２１）と第二部材（有底容器２２）を貼り合わせて内容物４を収容する収容空間が形成されており、

隣り合う第一部材（有底容器２１）同士の間に、線状の切り欠き部３２と、非切り欠き部３４が交互に配置される前記接続部３０が構成され、

隣り合う第二部材（有底容器２２）同士の間に、線状の切り欠き部３２と、非切り欠き部３４が交互に配置される前記接続部３０が構成され、

非切り欠き部３４により隣り合う複数の第一部材（有底容器２１）と、隣り合う複数の第二部材（有底容器２２）が、それぞれ接続されたままの状態において小容器２を開封できる構成とする。

【００６６】

これにより、小容器２を一つずつ開封するほか、複数の小容器２を一度に開封することも可能となる。

【００６７】

また、図１（Ａ）（Ｂ）に示すように、

第一部材、第二部材は、同一形状からなる有底容器２１，２２にて構成され、

小容器２は半割りすることで開封される、こととする。

【００６８】

これにより、特にブロック形状の固形、半固形の内容物を収容する形態に好適に利用できる。

【００６９】

また、図５（Ａ）（Ｂ）に示すように、

第一部材はフィルム状の蓋２５であり、第二部材は有底容器２２にて構成され、

小容器２は蓋２５を剥がすことで開封される、こととする。

【００７０】

これにより、ブロック形状の固形、半固形の内容物を収容するほか、液体を収容する形態にも好適に利用できる。

【００７１】

また、図７（Ａ）～（Ｄ）に示すように、

各小容器２は、各小容器２の内外を通じさせるための開口部２６ａを形成するための第二開口機構２６をさらに備え、

各小容器２の開口部２６ａから各小容器２内の内容物を抽出可能に構成される、こととする。

【００７２】

これにより、開口部２６ａを通じて内容物を抽出することもできる。

【産業上の利用可能性】

【００７３】

本発明は、飲料や食品、また、化粧品や薬品などを密閉して収容する容器について、幅広く適用することができる。

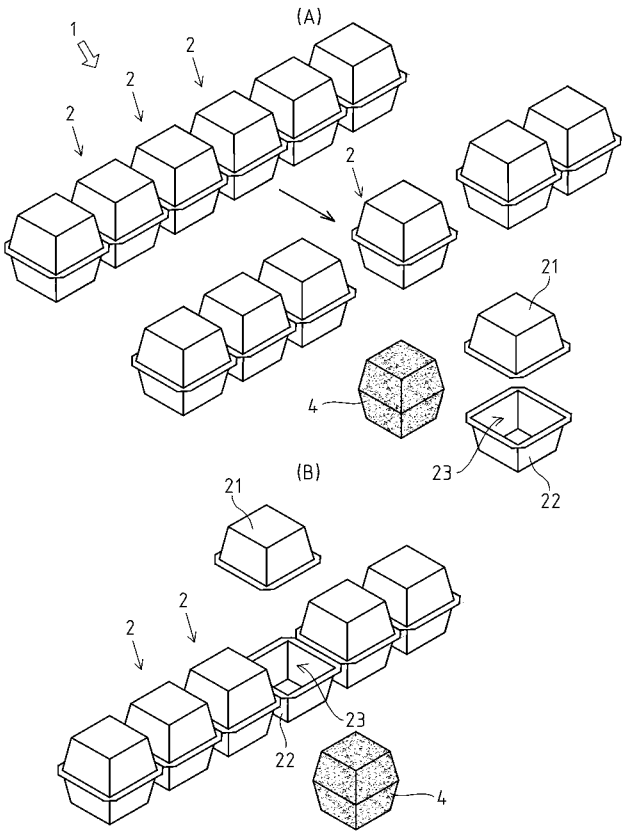
【符号の説明】

【００７４】

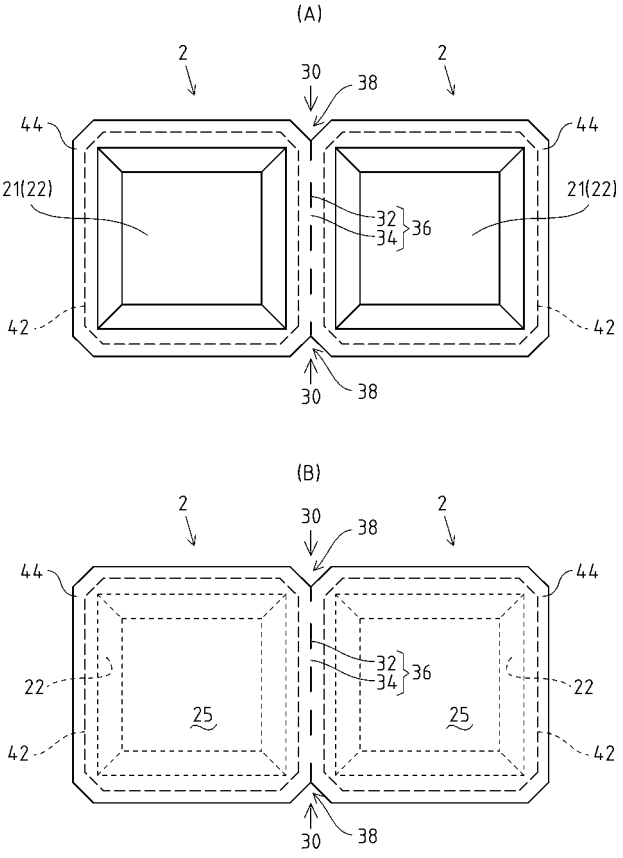
１　包装容器
２　小容器
４　内容物
５　ロール式収容装置

２１　　有底容器
２２　　有底容器
２３　　収容空間
２５　　蓋
３０　　接続部
３２　　切り欠き部
３４　　非切り欠き部
３６　　ミシン目状のライン
００３７　　段落
３８　　切り込み部部
４２　　接着ライン
４４　　非接着部

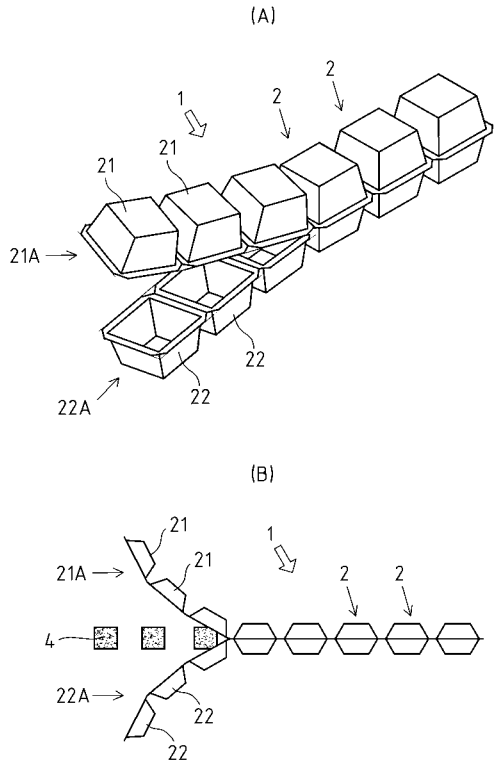
【図１】



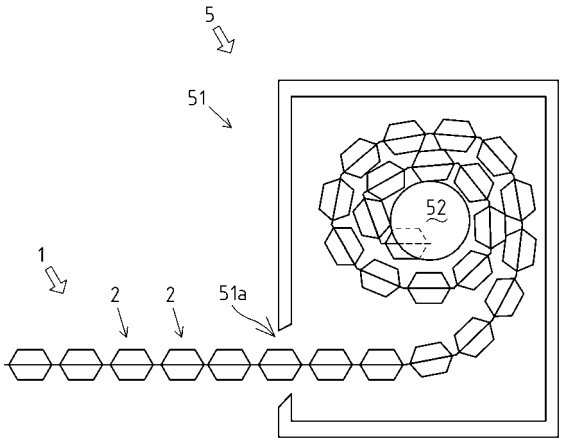
【図２】



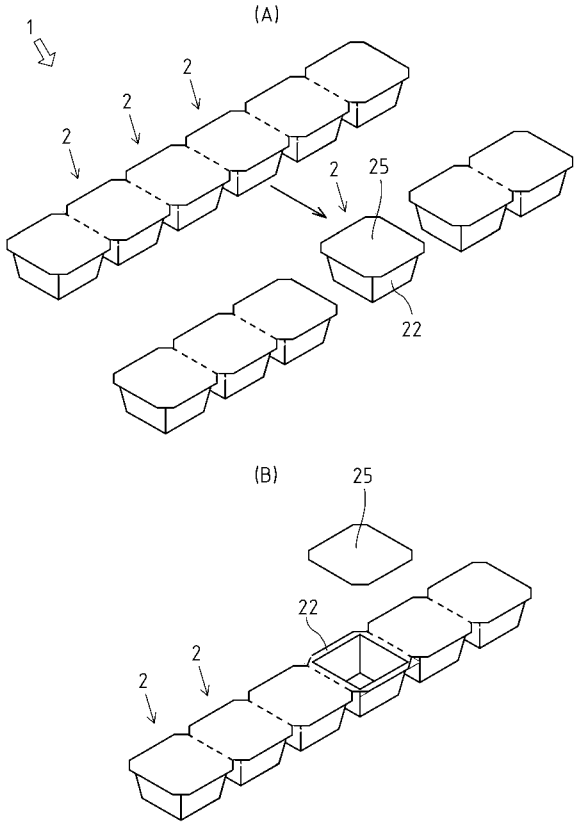
【図３】


(A)
1
2
2
21
21
21A
22
22A
22
(B)
21
1
21A
21
2
2
4
22A
22
22

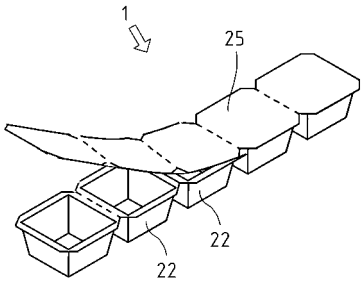
【図４】


5
51
52
1
2
2
51a

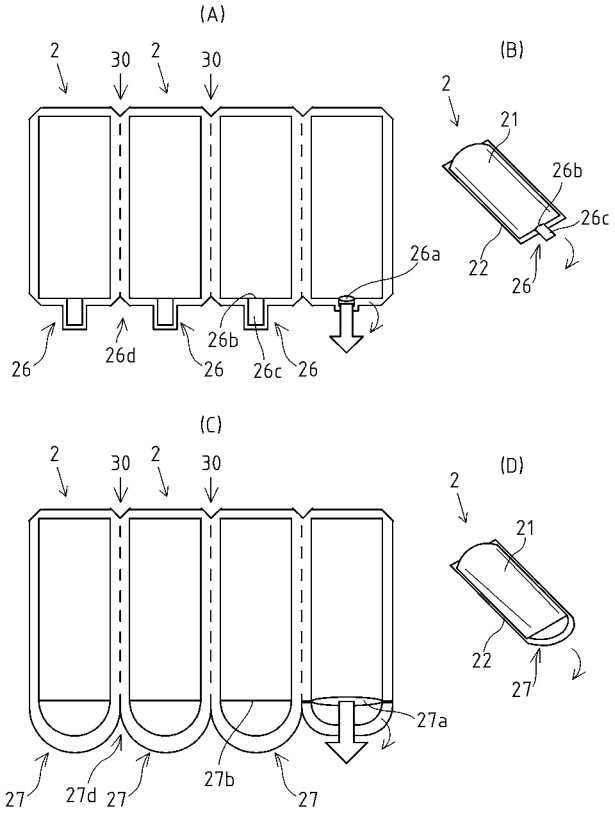
【図５】


(A)
1
2
2
2
2
25
22
(B)
25
22
2
2

【図６】


1
25
22
22

【図７】


(A)
2
30
2
30
26a
26
26d
26b
26
26c
26
(B)
2
21
26b
26c
22
26
(C)
2
30
2
30
27a
27
27d
27
27b
27
(D)
2
21
22
27